

令和7年度 第4回 在宅医療×介護連携@つちう Labo 参加者アンケート

- 日 時：令和7年12月23日（火）19時00分～20時30分
- 場 所：土浦市2階 男女共同参画センター 研修室1・2
- テーマ：土浦市の目指す自立支援
- 出席者：38名（アンケート回答率：97.4%）

1. あなたの年齢、職種を教えてください。

【年 齢】

	人数	割合
20代	4	10.8
30代	10	27.0
40代	7	18.9
50代	10	27.0
60代	5	13.5
70代以上	1	2.7
無回答	0	0.0
合計	37	100.0

【職 種】

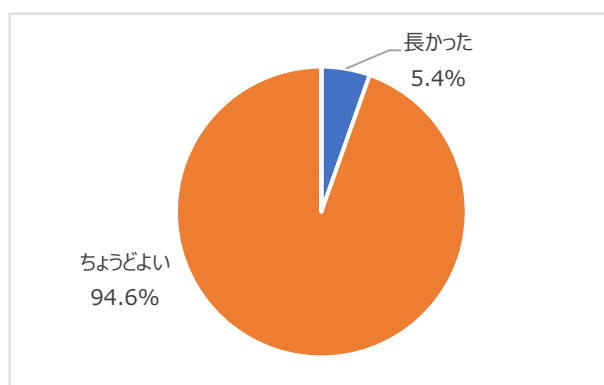
	人数	割合
介護支援専門員	9	24.3
薬剤師	15	40.5
看護師	1	2.7
保健師	1	2.7
理学療法士	3	8.1
作業療法士	4	10.8
言語聴覚士	1	2.7
社会福祉士	1	2.7
その他	1	2.7
無回答	1	2.7
合計	37	100.0

2. 本日の研修会について

（1）講演についてお伺いいたします

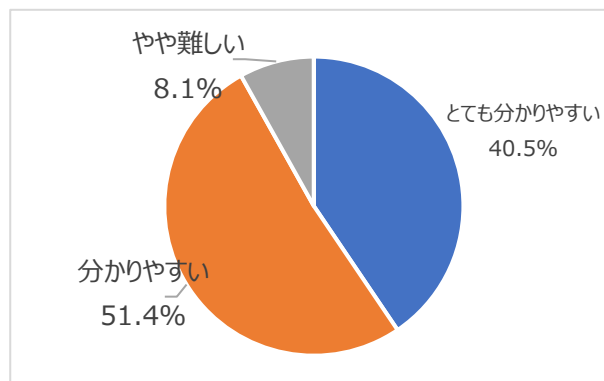
①講演の時間は、いかがでしたか？

	人数	割合
長かった	2	5.4
ちょうどよい	35	94.6
短かった	0	0.0
無回答	0	0.0
合計	37	100.0



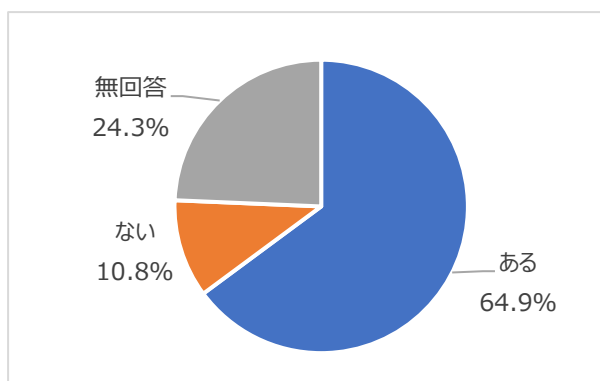
②講演の内容は、いかがでしたか？

	人数	割合
とても分かりやすい	15	40.5
分かりやすい	19	51.4
やや難しい	3	8.1
難しい	0	0.0
無回答	0	0.0
合計	37	100.0



③本日の講演内容で、今後取り組もうと思った内容がありますか？

	人数	割合
ある	24	64.9
ない	4	10.8
無回答	9	24.3
合計	37	100.0



【「ある」と回答した方：具体的な内容】

○介護支援専門員

- ・社会的処方という視点を持つ
- ・県リハビリテーションを利用してみたい
- ・介護申請をする前に、高齢福祉課でやっているようなセルフケア事業の紹介をしてみようと思う。
- ・服薬支援（独居の方）、体調管理を含めて

○薬剤師

- ・自立支援の定義
- ・本人に目標や思いを聞いてみる
- ・課題のみきわめ
- ・患者の希望に寄りそい、見守りつつ支えていくこと。
- ・運動に関して専門的なサポートがあることを患者に紹介できると思いました。
- ・各個人の状況に合わせた支援を、ご本人やご親族と共に探っていく

○理学療法士／作業療法士／言語聴覚士

- ・施設外にベンチの設置
- ・ツールの活用
- ・各種評価
- ・上木先生が利用していた評価ツール
- ・自立支援事業の継続をしていきたいと思いました。
- ・地域資源にもっと積極的に繋げる気持ちを持とうと思います。
- ・ASCOT 調べてみようかと思えます。勉強になりました。
- ・社会的処方の活用

○保健師：自立支援の視点を持って、支援をしたい。

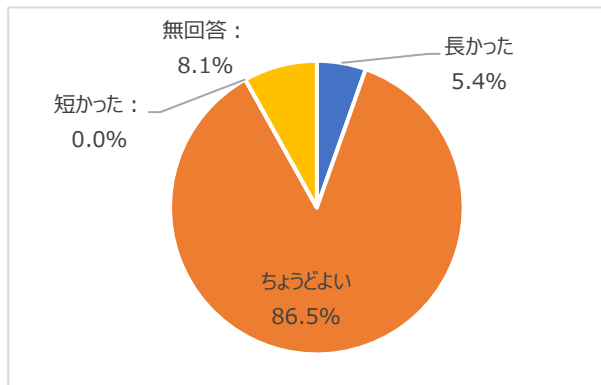
○社会福祉士：興味、関心、チェックシート、COPM など、今後使用できるツールを用いてチームケアに活かしていきたいと思いました。

○その他：自立支援について考える

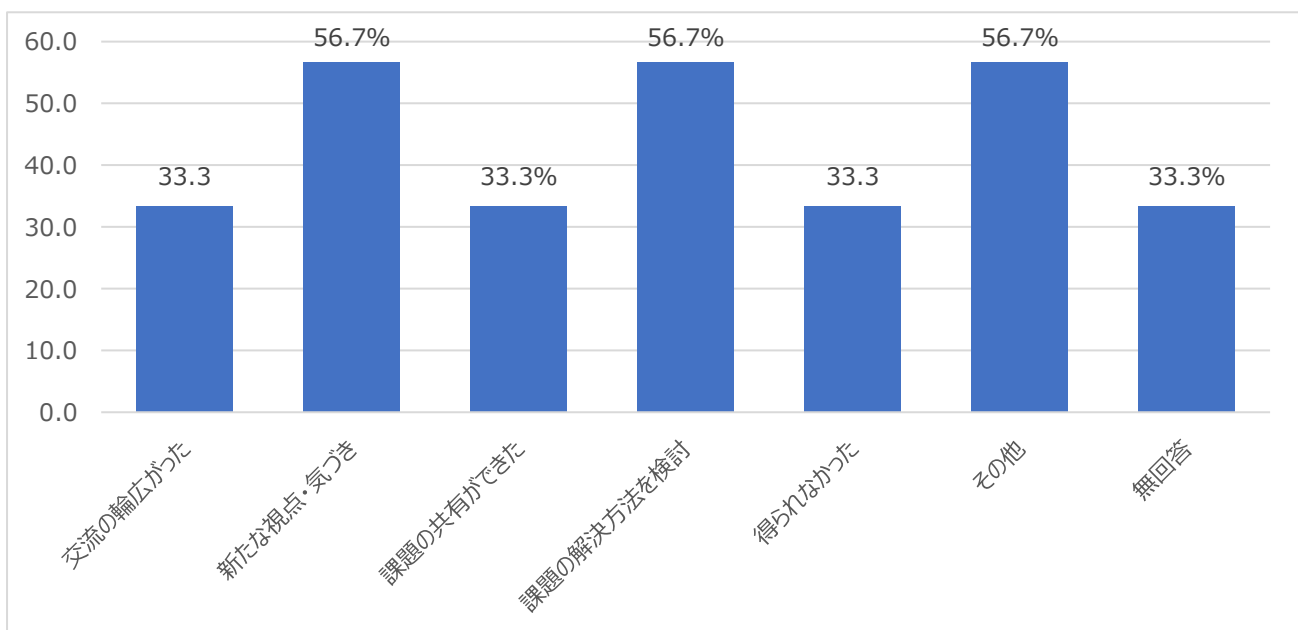
(2) 意見交換会について、お伺いたします。

①意見交換会の時間は、いかがでしたか？

	人数	割合
長かった	2	5.4
ちょうどよい	32	86.5
短かった	0	0.0
無回答	3	8.1
合計	37	100.0



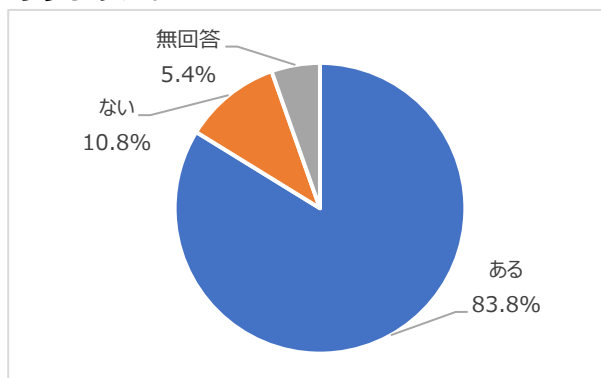
②本日の意見交換会では、どのような成果が得られましたか？



(3) 在宅療養の支援についてお伺いします。

①日常の業務の中で、在宅療養に携わることがありますか。

	人数	割合
ある	31	83.8
ない	4	10.8
無回答	2	5.4
合計	37	100.0



②円滑な在宅療養支援のため、日頃実践していることや、課題に感じていることを教えてください。

【実践していること】

- 介護支援専門員
- ・情報共有

- ・介護者の健康状態に注意を向ける
- ・かかりつけ医等との連携をとれるよう報告をするようにしている
- ・ケアをする家族の自分時間の充実度を考える
- 薬剤師
 - ・ケアマネ・医師との連携
 - ・電子連絡帳の活用
 - ・キーパーソンや本人、他職種とこまめにやりとりをするようにしている。
 - ・薬の話以外の話もすること、本人の好きなものなど
 - ・連絡を密にする
 - ・他職種との情報共有
 - ・在宅医療を知らない方への周知
 - ・過剰な支援にならないように注意している
- 理学療法士／作業療法士／言語聴覚士
 - ・つなげる、1人にさせない。
 - ・他職種との連携、情報の共有
 - ・情報共有を意識して行っている（ケアマネ、家族、本人）
 - ・機能向上、維持のためのリハビリテーション
 - ・家族、ケアマネに分かりやすく説明する
 - ・提案を押し付けない
- 看護師：本人の希望に沿った支援
- 保健師：関係機関と情報共有すること

【課題に感じていること】

- 介護支援専門員
 - ・複数の医療機関を受診する方の医療連携がすべて行えるわけではない
 - ・訪問介護事業所が少ない。サービス調整に限界がある。
 - ・支援する家族のいないケース
- 薬剤師
 - ・医師との連携不足
 - ・他職種との交流機会
 - ・どうすれば寄りそっていけるか
 - ・支援が必要なのに拒否する方への関わり方
 - ・他の職種の方と直接関わることが少ない
 - ・ケアマネが誰なのか分からない→サービス担当者会議に参加できない等デメリットがあるように感じる。
- 理学療法士／作業療法士／言語聴覚士
 - ・どこまで入り込んでいいか、タイムスケジュール管理。
 - ・ご本人自体が必要と感じていない場合の支援
 - ・家族が遠方の方や独居の方の場合

- ・他のサービスへの移行が大変
- ・（回復期の支援になってしまいますが）独居の方だと高齢であればあるほど、出来ることが少なくないのに、サ高住等比較的自由のきくところであるが、施設方向になってしまうこと。
- ・認知症の方への支援
- 看護師：帰宅してからの支援ができていない
- 保健師：課題など対応の共有
- その他：チームでの情報共有

③どのようなツールがあれば、連携しやすいですか。

- 介護支援専門員
 - ・インターネットでつながるチャットルーム等があるといいなと思う。認定が下りた人ひとりひとりに一つずつつくってもらい、自由に掲示板のように書き込めたら良いなと思った。
 - ・病院の医師との連携が困難。医師、看護師の介護支援に対する知識があまりない。
- 薬剤師
 - ・MCS にて情報交換
 - ・医師と直接連絡がとれるツール
 - ・他職種で共有するツール。担当者会議の実施。
 - ・共通のツール
- 理学療法士／作業療法士／言語聴覚士
 - ・皆忙しい中で日々働いている為、1つの共通ツールがあるといい（市単位でもいいので）
 - ・LINE や chat 等の sns ツール（MCS は複雑です）
 - ・（カルテの共有、サービス）市が1人1人のカルテをつなぐサービス
 - ・ケアマネとリハで話す機会の増加（回復期でも欲しいです）
 - ・詳細な医療情報が分かると嬉しいですが・・・
 - ・連携手帳を介護サービスだけでなく、医療の場に持ち運びされると更によいと思っています。
- 看護師：医療、地域の連携
- その他：MCS を使っているが、情報が多く整理するのが大変

④関係機関との連携に対して感じていることはありますか。

- 介護支援専門員
 - ・事業所によって窓口が変わることがあるので、気をつけています。大病院は相談しづらいことがある。
 - ・機関のサービスを利用する上で、利用方法にバラつきがある。統一して欲しい。
- 薬剤師
 - ・なかなか話し合いの場がづくりにくい
 - ・ケア会議での介入の難しさ
 - ・多職種が関わるが、その情報が報告書などの紙ベースとなることが多く、短時間でもいいので、多職種間とのコミュニケーションの場があるとよい。
- 理学療法士／作業療法士／言語聴覚士

- ・人をつかまえる、情報共有
 - ・ケアマネは電話対応が直ぐ出来ると思われがちです。デスクワークが主であると思われている。担当ケースが多いと、一日訪問で終わってしまうこともあります。他職種の仕事の理解が必要であると思います。
 - ・対応に時間がかかる事が多い
 - ・退院後の支援はソーシャルワーカーが主で進めており、インフォーマルサービスを知っていても、中々共有できる機会が少ない。介護サービス主の方向性が多く、ケアマネさんと検討する機会がない。
 - ・いろいろなツールはありますが、直接会ってコミュニケーションをとることの重要性を感じています。
- その他：各機関が専門性を持って動いてくれている。

（４）自立支援につなげるために、必要だと感じる資源やサービスはありますか。

- 介護支援専門員
- ・資源に関する知識が知れるサービス
 - ・買い物支援、安く利用できるサービス
 - ・セルフケアができるような（リハビリ卒業後の）運動ができる場所、集まりの場。
 - ・外出しやすい環境、ADL 向上の為に簡単に外出できる環境を整えてほしい（介護タクシー、タクシーの料金の高騰）
 - ・自家用車でなくても通える（公民館などに）手段。傾聴ボランティア（通所拒否の方が他者交流を始めるきっかけ）
- 理学療法士／作業療法士／言語聴覚士
- ・情報共有ツールの普及、統一（ネット化して欲しい）。地域交流の場（場はあるが遠い、行きにくいと聞くので）。
 - ・足（移動に関する）の支援、買い物等
 - ・社会資源（地域の活動やサロン等）、本人の役割を見つける
 - ・市が管理する無料のジム、常にスタッフがいて生活サポート支援ができる場所
 - ・介護サービスによらないサービス（サロンやシルバーリハビリ体操等）の利用
 - ・介護予防、生活支援
 - ・若年層の障害の方の通う場
- その他：社会参加

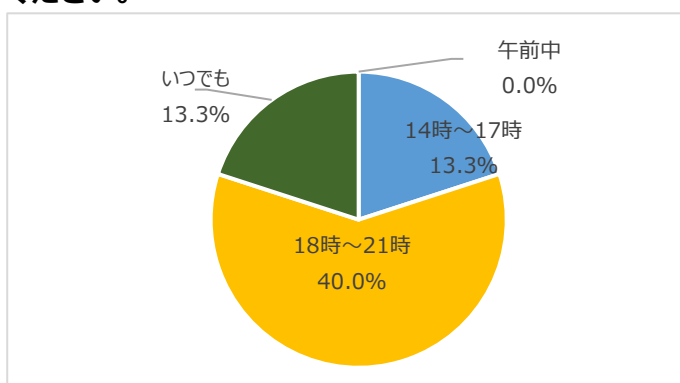
（５）今後、どのようなテーマの研修会や意見交換会を行ってみたいですか。

- 介護支援専門員
- ・教育
 - ・身寄りのない方の支援
- 薬剤師

- ・ 末期や看取りの支援について
- ・ 摂食、嚥下について。歯科との連携。
- 理学療法士／作業療法士／言語聴覚士
- ・ 各支援サービス者から見た考え方等
- ・ ニーズがあるのに、サービスや社会資源がない（支援）
- ・ 情報共有について
- ・ 病院でのサービス提供の仕方、疾患別支援の仕方
- ・ サービス資源がなかったらどうするのか、どうなるのかを考えた。市でのサービス、資源のあり方を考えることをやりたいです。
- その他：介護と障害

（６）研修会などに参加できる時間に○をつけてください。

	人数	割合
午前中	0	0.0
14時～17時	8	13.3
18時～21時	24	40.0
いつでも	8	13.3
無回答	1	1.7



（７）最後に、お気づきの点や、ご感想などがありましたら、自由にご記載ください。

- ・ 本日はありがとうございました。様々な視点から考え直してみることができました。
- ・ 講師の先生のお声が小さかった、聞きとりにくかった。
- ・ 貴重なご講演ありがとうございました。
- ・ 久しぶりに参加させていただきました。今後、また参加したいと思います。